

平成 28 年度
北野の里（仮称）
まちづくり
ワークショップ
報告書



平成 29 年 3 月

北野の里（仮称）まちづくりワークショップ運営事務局

本報告書の表紙・裏表紙のイメージスケッチは、

三鷹市立第六中学校美術部の生徒のみなさんなどに描いていただきました。

北野の里（仮称）の実現に向けて

現在、三鷹市の北野地域で進められている東京外かく環状道路（以下「外環道路」）の整備工事では、都道である東八道路とのインターチェンジや中央高速道路と接続するジャンクション、2つの換気所の設置が計画されています。外環道路の整備は、首都東京の交通網の中で重要な機能を果たす道路として国が決定した国道ですが、北野地域は豊かな緑と多くの農地が残る環境に恵まれた地域であり、北野町会という1つの町会を中心に良好なコミュニティが形成されていることから、北野地域のほぼ真ん中に外環道路が整備されることで、緑地や農地の減少、コミュニティの分断など、地域に及ぼす影響について懸念されてきました。

そこで、外環道路の整備が地域に与える影響をできるだけ小さくするため、掘割部を可能な限り蓋かけして利用が図られるようにすることなど、道路整備にあたっては創造的なまちづくりが必要であるとの問題意識から、すでに、国に「北野の里（仮称）のまちづくり」の実現を要請し、国がまとめた「対応の方針」において、この要請への反映が明示されています。これらの状況を踏まえ、三鷹市では「第4次三鷹市基本計画（第1次改定）」「緑と水の基本計画 2022」等において、外環道路中央ジャンクション(仮称)の蓋かけ上部空間等を含む周辺一帯を、三鷹市にとって4つ目のふれあいの里となる「北野の里(仮称)」と位置づけています。そして、これらの計画を実現するために、中央高速道路とのジャンクション整備と一体的なまちづくり・みちづくりを目指して、市民参加による検討を積み重ねてきました。

平成28（2016）年度のワークショップには、地元関係団体の推薦による市民の皆様と無作為抽出方法により選出された市民の皆様、地元の第六中学校の美術部の生徒の皆様にも参加していただきました。様々な行事が重なる時期の開催にも関わらず、三鷹市のまちづくりのために貴重な時間を割いて積極的に参画していただいたことに心より感謝申し上げます。

この報告書には、参加者の皆様から提案された多くのまちづくりのアイデアや提案が盛り込まれています。改めて、三鷹市民の皆様の地域愛と市民力の高さを感じています。皆様からいただいたアイデアや提案につきましては、今後策定する「北野の里（仮称）のまちづくり整備計画」に最大限反映していきます。また、市はこの整備計画に基づき、市民の皆様をはじめ、整備の主体である国や東京都、工事事業者である中日本高速道路株式会社、東日本高速道路株式会社と連携・協働して、北野地域において、緑や農の拠点となるとともに、市民の皆様の活動や交流の活性化に寄与する「北野の里（仮称）」のまちづくりを進めていきたいと思ひます。今後とも、引き続きのご注目とご参加を心よりお願いいたします。

平成 29（2017）年 3 月

三鷹市長

清原慶子

北野の将来に向けたまちづくりについて

私は北野で生まれ育ち、今もこの土地で代々受け継がれた農地を耕し、守っています。昭和 30 年頃までの北野は、豊かなみどりと農の風景が広がり、仙川の水を引いた田んぼが輝く、大変のどかで風光明媚な土地でありました。幼少期は、地域に住む仲間と毎日朝から晩まで北野のみどり豊かな自然の中で遊んで育ち、夏には天神山の裏で水遊びをした思い出があります。

時代の流れとともに、田んぼはなくなり、農地は減って住宅が増えてきましたが、北野では今もお、農とみどりが広がる地域特性がしっかりと残っています。私自身、北野に住む者として、北野の良好な環境を守っていきたいですし、これまで農地を守り耕し、地域みなさんに新鮮な野菜を提供してきたことに誇りを持っています。

また、北野は、一つの町会を中心にまとまっています。町会の歴史も長く、多世代に渡って自分は“北野”の者だという意識があり、良好なコミュニティをはぐくんできた地域であります。

そんな北野地域に、外かく環状道路が高架方式で計画決定されました。当時、高架方式の計画は、地域の環境に与える影響が大きいなど、地元住民の理解が得られず、長く凍結状態が続いていました。その後、国・東京都、関係自治体及び住民による検討を重ね、地下方式の高速道路とすることで、地域住民の理解を得て再スタートした事業です。現在は工事が本格的にはじまりましたが、改めて、子や孫などの次世代へ、北野の財産である豊かなみどりや農地を残し、良好なコミュニティを継承することが、我々地域住民の務めだと強く感じています。

北野の将来に向けたまちづくりを地元住民としてしっかり考え、ジャンクションを中心とした地域が、新たな北野地域のふれあいの里となるよう、みどりに恵まれた環境と農の風景を保全し、盆踊りや北野町会運動会、打ち上げ花火などができるなど、地域のコミュニティに資する空間を創出してほしいと強く願っています。

今回のワークショップでは、平成 20 年から、これまでに示された北野の里（仮称）への意見・アイデアを基に、どこで何をしたら良いかなどについて話し合ったことで、より具体性が増したと感じています。

是非、主催者である三鷹市と共催者である国土交通省、東京都、そして協力者である中日本高速道路株式会社、東日本高速道路株式会社が、我々ワークショップ参加者の意見・提案を真摯に受け止め、北野地域の魅力を生かした新たなまちづくりと外環道の整備を一体的に進めていくことを期待しています。

北野の里（仮称）まちづくりワークショップ

準備・運営会議 会長

岡田源治

目次

1	ワークショップの目的と検討テーマ	1
(1)	本報告書の位置付け	1
(2)	東京外かく環状道路の概要	1
(3)	北野の里（仮称）の概要	1
(4)	北野の里（仮称）まちづくりワークショップまでの経緯	1
(5)	参加者の登録方法	2
(6)	北野の里（仮称）まちづくりワークショップの特徴	2
(7)	ワークショップの開催日時と内容	3
(8)	ワークショップの結果とまとめ方	4
2	北野の里（仮称）まちづくりワークショップ ゾーニング案のまとめ	7
3	空間や活動に関する意見やアイデア	9
(1)	北野の里（仮称）全体に関する意見やアイデア	13
(2)	各ゾーニングに関する意見やアイデア	15
4	ワークショップの記録	20
(1)	第1回目ワークショップの記録	20
(2)	第2回目ワークショップの記録	58
(3)	第3回目ワークショップの記録	79

1 ワークショップの目的と検討テーマ

（１）本報告書の位置付け

本報告書は、「北野の里（仮称）まちづくりワークショップ（以下「ワークショップ」という。）」において、ゾーニングの作成に向けて議論された参加者の方々の意見を、ワークシートとともに掲載し、とりまとめたものです。今後、これらの意見を三鷹市が策定する北野の里（仮称）のまちづくり整備計画に反映するとともに、第４のふれあいの里となる、「北野の里（仮称）」のまちづくりに生かしていきます。

（２）東京外かく環状道路の概要

東京外かく環状道路（以下「外環」という。）計画は、都心から半径約 15 kmを環状に連絡する延長約 85 kmの幹線道路です。関越道から東名高速までの約 16 kmは、昭和 41 年 7 月に高架式で都市計画決定がされていましたが、平成 19 年度に大深度地下を使用したトンネル構造に都市計画変更され、平成 21 年 5 月に事業化されました。また、平成 26 年 3 月には都市計画事業の承認及び認可を受け、平成 27 年 11 月より、北野地域において本体工事が着手されています。

外環計画では、三鷹市の中原、新川、北野、牟礼、井の頭地域を約 3.3 kmにわたり南北に貫通し、さらに北野地域において中央自動車道と連絡するジャンクションや東八道路と接続するインターチェンジ、換気所等の設置が予定されています。

（３）北野の里（仮称）の概要

北野の里（仮称）の範囲は、ジャンクション蓋かけ上部空間等及びジャンクション周辺地域を想定しています。第４次三鷹市基本計画において、ジャンクション上部を蓋かけし、周辺農地の保全等を含めた北野の里（仮称）の整備に向けた取り組みを進めるとともに、周辺の都市計画道路の整備にあわせたまちづくりの誘導等を行うこととしています。

（４）北野の里（仮称）まちづくりワークショップまでの経緯

外環計画は、市内全域に大きな影響をもたらす計画であることから、三鷹市では、平成 19 年 1 月、10 分類 42 項目の意見書を提出し、外環周辺のまちづくりや環境対策について要望してきました。国土交通省・東京都は、この要望を受け、三鷹市と協働で「東京外かく環状道路中央ジャンクション三鷹地区検討会」を開催し、100 名を超える市民のみなさんの参加により懸念や課題について話し合いました。その結果を受けて、平成 21 年 4 月、国土交通省と東京都は、今後の課題やその解決のための「東京外かく環状道路（関越道～東名高速間）対応の方針（以下「対応の方針」という。）」を示しました。三鷹市においては、ジャンクション蓋かけ上部空間等及びその周辺を含む地域一帯を新たなふれあいの里として「北野の里（仮称）」と位置付けました。ジャンクション周辺のまちづくりを検討の際には、市民参加による話し合いなど市民の創造的な

参画を可能とする手法を導入し、「対応の方針」に基づき、市民参加によるまちづくりを推進するため、平成 26 年 2 月に「北野の里（仮称）を中心としたまちづくりワークショップ」を国土交通省・東京都と協働で開催しました。

また、市は、北野の里（仮称）を中心としたまちづくりワークショップでいただいたご意見に対する市の対応の方向性を示す「三鷹市の基本的な考え方」をとりまとめ、中長期的な視点に立った北野地域の将来像の考え方を示しました。

この考え方をもとに、北野の里（仮称）の実現をめざし、ジャンクションとその周辺のまちづくりを一体的に進めるためのまちづくりの方向性を示すとともに、北野の里（仮称）まちづくり整備計画（仮称）の策定に向けた指針として「北野の里（仮称）まちづくり方針（以下「まちづくり方針」という。）を平成 28 年 3 月に策定しました。

北野の里（仮称）まちづくりワークショップは、まちづくり方針に基づき、より具体的に蓋かけ上部空間等にどのような機能・施設などを整備し、どのように利用したいかなどを市民参加で検討するため、国・東京都と協働で開催したものです。

（５）参加者の登録方法

今回は、住民基本台帳を基に、18 歳以上の市民約 250 名を「無作為抽出」により選出し、参加依頼書を送付しました。その中から、参加の承諾の返事をいただいた 12 名の方と、中央ジャンクションが整備され、影響を受けると考えられる北野地域の地元関係団体から推薦を受けた 30 名の方を合わせた 42 名の方がワークショップの参加者として登録されました。

なお、「無作為抽出」による市民参加の方法は、年齢や性別の偏りが少なく、広く市民に参加を呼びかけることができる手法で、普段、市政に参加する機会の少ない市民の声を市政に反映させることができる公募方法です。ワークショップの募集対象地域については、蓋かけ上部空間等については、近隣の方々の利用が最も高いと考えられるため、牟礼・北野・新川・中原地区を対象としました。

（６）北野の里（仮称）まちづくりワークショップの特徴

今回の取り組みでは、平成 25 年度に開催された「北野の里（仮称）を中心としたまちづくりワークショップ」に携わった技術的アドバイザーが進行し、景観及び公園緑地等の分野については、アーバンデザインの専門家がとりまとめ、主催者・共催者・協力者からなる運営事務局がワークショップを運営しました。また、話し合いにおいては、各グループのテーブルに外かく環状道路中央ジャンクション(仮称)の模型を設置し、平成 25 年度の「北野の里（仮称）を中心としたまちづくりワークショップ」でいただいたご意見により作成したゾーニング素案を基に、北野の里（仮称）のゾーニングやそのコンセプトについて、活用のイメージを深めながら築き上げたことが特徴です。

（７）ワークショップの開催日時と内容

①日時

第 1 回目 平成 28 年 11 月 6 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 5 時 30 分

参加者 33 名

- 1 開会・あいさつ
- 2 オリエンテーション
- 3 まち歩き
- 4 まとめ

第 2 回目 平成 28 年 11 月 27 日（日） 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分

参加者 35 名

- 1 開会
- 2 まち歩きの振り返り
- 3 ゾーニング素案等の紹介
- 4 グループワーク
- 5 まとめ

第 3 回目 平成 29 年 2 月 5 日（日） 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分

参加者 32 名

- 1 開会
- 2 ゾーニング案等の説明
- 3 グループワーク
- 4 まとめ
- 5 主催者あいさつ・閉会

②会場 ふじみ衛生組合 3 F 研修ホール（調布市深大寺東町 7-50-30）

③各回の主な内容

テーマ	内 容
＜第 1 回目＞ オリエンテーション・まち歩き	ワークショップの目的と進め方を確認し、北野の景観・地域特性をまち歩きを通じて確認していただきました。
＜第 2 回目＞ ゾーニング素案の「良いところ」「気になるところ」「活用のイメージ」を出し合おう	第 1 回目で確認した内容や、これまでの市民意見等を踏まえたゾーニング素案を基に、ゾーンごとの施設や空間及び活用(アクティビティ)のイメージなどを検討し、みなさんにご提案していただきました。
＜第 3 回目＞ ゾーニング案を確認し、施設や空間及び活用（アクティビティ）のイメージをさらに深めよう	第 2 回目のみなさんのご意見を踏まえたゾーニング案をアーバンデザインの専門家から紹介し、さらに意見を出し合うことで施設や空間及び活用（アクティビティ）のイメージを深めていただきました。

(8) ワークショップの結果とまとめ方

ワークショップでいただいたご意見等について、以下の手順及び観点で全体のとりまとめを行いました。

(第1回目 まち歩きについて)

- ①まち歩きにおける、各グループのチェックポイントごとの意見・感想をまとめました。
- ②各グループの意見・感想を「まち歩き（全グループの意見のまとめ）」にまとめました。

**第1回目ワークショップ まち歩き
(グループ別の意見のまとめ)**

1グループ（参加者4名）

①天神山通り、北野公園 ②都市計画道三鷹3・4	○ 現在も、貴重な里の原風景である雑木林が残っていて、親子で昆虫採集などできる
---------------------------------------	--

**第1回目ワークショップ まち歩き
(全グループの意見のまとめ)**

①天神山通り、北野公園



■ 北野の原風景である雑木林や農地、直売所などを今後も残していきたい!

- 現在も、貴重な里の原風景である雑木林が残っていて、親子で昆虫採集などできる
- 今のまま自然や公園、銀杏の無人販売所を残してほしい
- 野菜の直売所や農地がたくさんある

(第2回目 ワークショップについて)

- ①外かく環状道路の模型等に描かれた意見・感想を各グループごとにまとめました。
- ②各グループの意見・感想を「全グループの意見のまとめ」にまとめました。

第2回目ワークショップ (グループ別の意見のまとめ)



全グループの意見のまとめ

北野の里（仮称）全体

- 里の範囲は北野1～4丁目まで広げたい
 - 里の範囲は可能なら広く
- ジャンクションで地域が分断されないようにしよう
 - 中央ジャンクションができることで地域が分断されることが心配
- 通過交通だけのインターチェンジにしない
 - インターチェンジを通過交通だけにしない工夫が必要
- 蓋かけ上部空間等の外周にランニングやサイクリングコースを設けよう
 - 外周にはランニングやサイクリングができる通路

(第3回目 ワークショップについて)

- ①各グループのゾーニング案・コンセプト案等の意見・感想を「ゾーニング案」、「施設や空間、活用のイメージ」の意見に分類してまとめました。
- ②各グループの意見・感想を「全グループの意見のまとめ」として、「ゾーニング案」、「施設や空間、活用のイメージ」に分類してまとめました。

第3回目ワークショップ (グループ別の意見のまとめ)

1グループ（参加者5名）

北野の里（仮称）全体	○ 地域の住民を一番に考え、今の北野の静かな環境を大切にしたい ・ 世界に発信して、海外からも観光客が訪れるような、賑わいのある場ではなく、ジャンクションをつくるために土地を渡した地域の方々の考え、現在の北野の静かなイメージを大切にしたい
-------------------	---

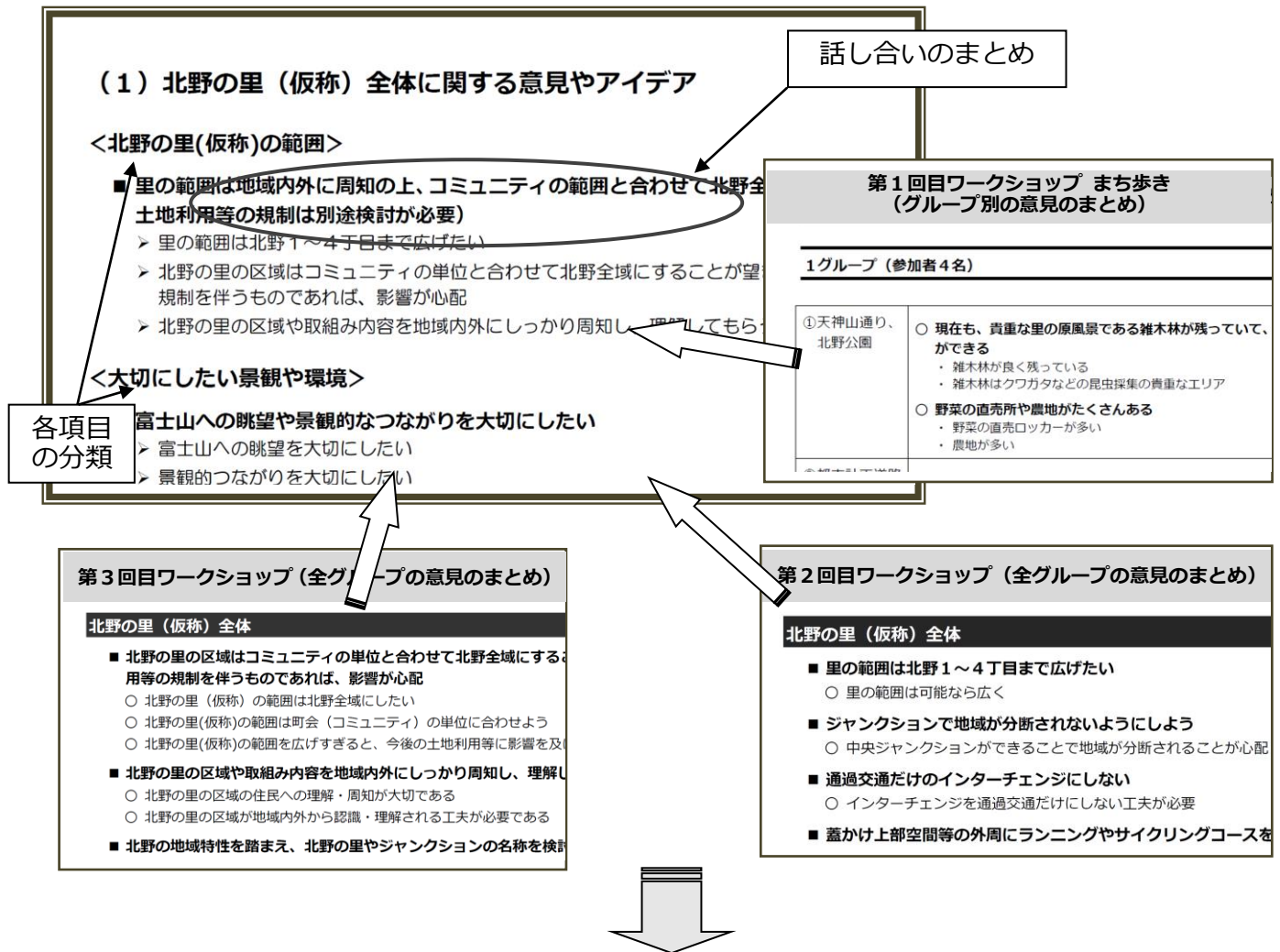
第3回目ワークショップ (全グループの意見のまとめ)

北野の里（仮称）全体

- 北野の里の区域はコミュニティの単位と合わせて北野全域にするような規制を伴うものであれば、影響が心配
 - 北野の里（仮称）の範囲は北野全域にしたい
 - 北野の里（仮称）の範囲は町会（コミュニティ）の単位に合わせよう
 - 北野の里（仮称）の範囲を広げすぎると、今後の土地利用等に影響を及ぼす
- 北野の里の区域や取組み内容を地域内外にしっかり周知し、理解してもらう
 - 北野の里の区域の住民への理解・周知が大切である
 - 北野の里の区域が地域内外から認識・理解される工夫が必要である
- 北野の地域特性を踏まえ、北野の里やジャンクションの名称を検討する

（北野の里（仮称）全体に関する意見やアイデア・各ゾーンに関する意見やアイデアのまとめ）

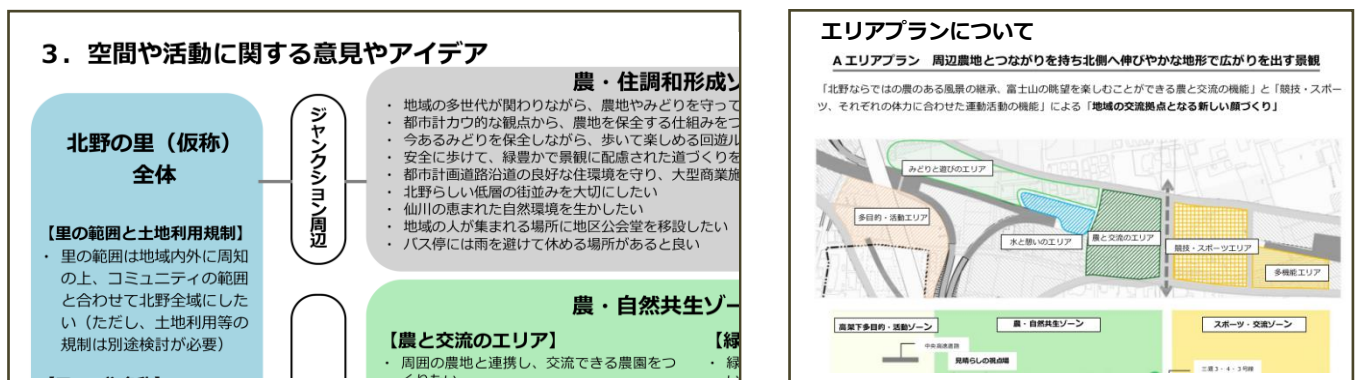
各回の話し合いのまとめの言葉を、「北野の里（仮称）全体」、「各ゾーニング」に関する意見やアイデアに分けて掲載し、さらにまとめました。また、「北野の里（仮称）全体」については、第 1 回目～第 3 回目のまとめにおいて、里全体に係る主な意見・感想を各項目に分類し、掲載しました。



（「空間や活動に関する意見やアイデア」の記載）

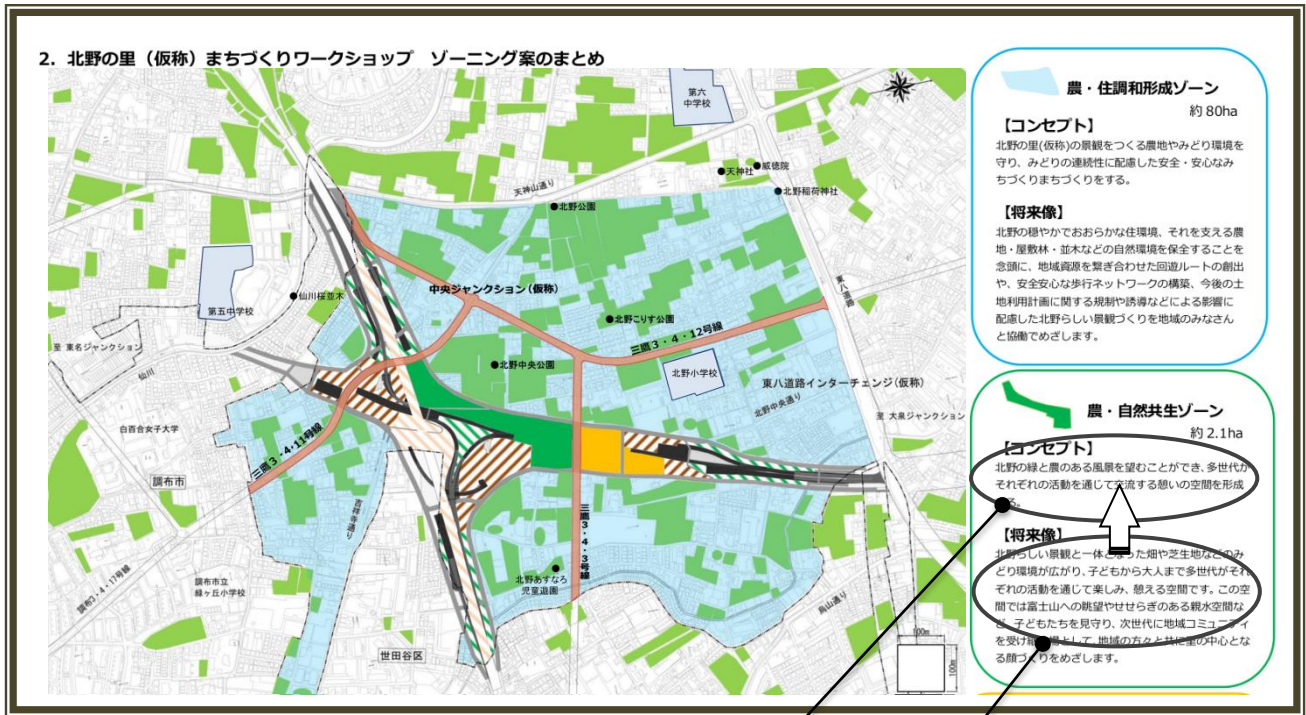
「北野の里全体」・「各ゾーニング」のまとめをゾーニング体系図に記載しました。

また、エリアプランについていただいた意見を基に記載しました。



(ゾーニング案のまとめ)

ゾーニング案においては、各ゾーンの空間構成の考え方を「将来像」として「空間や活動に関する意見やアイデア」を基にまとめ、構成しました。また、コンセプトは、各ゾーンの「将来像」から、ゾーンの大きな方針として記載しました。



ゾーンの大きな方針として、
各ゾーンの「将来像」からコンセプトを記載

「空間や活動に関する意見やアイデア」より、
各ゾーンの将来像としてまとめ